

検証保育・検証授業5 長門照乃教諭（糸満市立潮平小学校）

当初7月9日(木)に予定されていた前期教育研究員の長門照乃教諭による小学校道徳の検証授業は、台風等の影響により7月15日(水)に変更して、糸満市立潮平小学校で行われました。

学級の子どもたちは、発表の仕方や聴く姿勢が大変すばらしく、生き物を大切にすることについて一生懸命考えて発表している姿が印象的でした。

指導講師の上地完治教授からは、「児童への問いかけをするとき、もっと考えさせる思考をとめない発問が見られていたので、それは道徳に限らず活かせることだと思う。特に、中心になる場面では、何に対してかわいそうなのか、どんな意味でかわいそうなのか追求することが大切であり、曖昧な答えでいいということは思考がそこで止まり、自分のものにならず、曖昧なままにしてしまうので、何でということさらさら聞くという発問の工夫をすることである。多様な考えを整理したり、多様性を生かすためには、それが不可欠である。また、道徳の授業では、資料を分析し、そのねらいや価値を見極め、具体的に聞くことの出来る中心発問を設定し、教師が意図を持って授業を構築するためにそれが生きるような展開が大切である。」等の指導助言をいただきました。

授業後の検証授業研究会では、「子ども達が積極的に発言していて、自由に発言できる支持的な風土ができています。中心発問が難しく、どうやって設定することがいいのか。」等の意見がありました。

潮平小学校の多くの先生方が授業参観をしていただきました。全校体制で照乃教諭の研究を支えてくださっていることが感じられる検証授業でした。

この検証授業をもって、前期教育研究員5人全員の検証保育・検証授業が終了しました。協力していただきました、市町教育委員会の皆様、所属校の園長先生、校長先生、職員の皆様、どうもありがとうございました。

今後は、9月25日の報告会に向けて、研究のまとめを行っていきます。

【研究テーマ】

〈小学校道徳〉

多様な考えに触れ、考えを深める道徳授業の工夫
～価値の深まりを追求する発問の工夫を通して～

【研究仮説】

思考を促す発問の工夫により、子ども達が様々な考えを出し合い、多様な考えに触れながら、道徳的価値についての考えを深めることができるであろう。



写真1 検証授業の様子



写真2 検証授業研究会の様子

検証授業を終えて（長門照乃教諭）

検証授業では、発問の難しさを改めて感じました。多様な考えや様々な視点から考えられるような中心発問の設定や中心場面にもっていくまでの補助発問やゆさぶりの発問など、子どもたちの声を意図的に拾いながら、どう広げ、どう導いていくかという教師の力量が大きな鍵になることを痛感しました。

子どもたちの振り返りワークシートの中で、「はねがあってもなくてもちゃんと育てる」や「ありをころして食べたことがあったけど、虫をころしちゃだめだということが分かりました」というような授業のねらいに迫る意見も出ていたので、子どもたちなりに一生懸命に考え、学ぶことも多かったと思います。

今回の検証授業は、直前まで指導案作成に追われていたこともあり、授業の流れや児童の予想される思考の流れ分析が十分でなかったことを反省し、今後も指導講師の上地完治先生の指導のもと、授業改善の視点ポイントをもとに授業づくりを重ねていきたいです。

ご指導下さった、上原雅志所長、上地完治先生、励ましてくれた研究員のみなさん、ありがとうございました。



写真3 潮平小学校にて